

第1部 リーディングプロジェクト振り返り(46 ページ)

1 地域の「やりたい」をかなえ続けるプロジェクト

(1)概要

少子高齢化の進行やテクノロジーの急速な進展によるコミュニケーション方法の変容等により、市民のライフスタイルや価値観は多様化しています。地域に関わる人のつながりを広げるため、まちの未来に関心を持つ様々な立場の人が、地域課題を自分ごととして共感した人が話し合い、行動につなげる場「寄り合い-The YORIAI-」を実施します。寄り合いで生まれた新しい関係性や価値を持続可能な地域づくりに活かし、地域の「やりたい」をかなえ続けます。

(2)主な成果

①多様な主体との地域課題解決

コロナ禍前の2019年度は、約3,100人の市民が事業を通して地域活動に参加していましたが、コロナ禍の影響を受けた2020年度は約1,700人の参加に留まりました。

2022年度以降、地区協議会の活動支援や「寄り合い-The YORIAI-」等に取り組みました。市民のライフスタイルの多様化により、「地域に活気があると感じる市民の割合」は横ばいでしたが、目標を大幅に超える方が、主体的に地域活動へと参加しました。この結果は、「課題解決に向けた話し合いの場の参加しやすさ」を感じる市民が増えていることに現れています。

市民、事業者、地域活動団体等が主体的に地域活動へ参加したことで、連携の機運が高まり、地区協議会等による支援の結果、地域課題解決のための取組が目標を上回って生まれました。

<地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い-The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの参加人数>

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	1,750人	1,800人	1,850人	1,900人
実績	4,259人	6,217人	4,507人	4,424人

<地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い-The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの実施件数>

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	55	60	65	70
実績	81	91	76	82

②マッチングの促進

市民協働フェスティバル「まちカフェ！」や地域活動サポートオフィスによる日頃の相談を通じて、個人や団体間をマッチングし、新たなつながりを創出しました。また、市内5か所に設立された「まちだ福祉〇ごとサポートセンター」では、本人やその家族のニーズに合った支援を行いました。

<町田市地域活動サポートオフィスによるマッチング件数>

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	12	12	12	12
実績	21	22	21	39

<まちだ福祉〇ごとサポートセンターの取組>

- ・地域の多様な主体と連携した参加支援
社会参加したい方について、本人・ご家族の意向や抱える課題等を丁寧に把握し、地域の社会資源につなげました。2025年度は、延べ46件の相談がありました。
- ・身近な居場所づくり支援
世代や属性を超えて住民同士の交流・参加の機会を生み出す居場所づくりのコーディネートを行いました。2025年度は延べ80件の相談がありました。

③「わたしの地区の未来ビジョン」の実現に向けた活動の実施

「地区別懇談会」、「地区ミーティング」では地区の目指すべき姿を実現するための、子どもや福祉、地域活性化など25の新たなプロジェクトが生まれました。



【寄り合い-The YORIAI-(小山防災)の実施状況】



【地域活性化プロジェクトの事例(チラシ)】

(3)地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクトの実績

・基本目標Ⅱ-1の指標

指 標	計画初期値 (2021年度)	現状値 (2025年度)	目標値 (2031年度)
課題解決に向けた話し合いの場の参加しやすさ	8.2%	12.2%	20%
地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い-The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの参加人数	1,716 人/年	4,424人	2,200 人/年

・基本目標Ⅱ-2の指標

指 標	計画初期値 (2021年度)	現状値 (2025年度)	目標値 (2031年度)
地域に活気があると感じる市民の割合	32.0%	30%	45%
地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い -The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの実施件数	10 件/年	82件/年	100 件/年

・基本目標Ⅲ-1の指標

指 標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
福祉サービスに関する情報を入手しやすいと感じる市民の割合	43.8%	37.6%	50%
困ったときに助けてもらえる人や相談支援機関があると感じる市民の割合	73.0%	78.5%	80%
地域福祉コーディネーターが地域のつながりから相談支援に結び付けた件数	-	168件/年	350件/年

(4)リーディングプロジェクト(地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト)の課題後半期では、各地区で新たなプロジェクトの実現や、実現した取組が継続できるよう、様々な関係機関が連携して、支援を行う必要があります。

<根拠>

- ・多様な主体の連携による地域課題解決のための取組数、地域活動にかかわる関係者数ともに横ばい傾向にあります。
- ・「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」で行った市民アンケート調査や地域活動団体アンケート調査の結果によると、プロジェクトを継続するための資金や情報、場所の支援が求められています。

2 困りごとをなくそうプロジェクト

(1)概要

8050問題やダブルケア、ひきこもりといった、複雑化・複合化した課題を抱える市民に寄り添い支えるため、各支援機関、NPO 法人等の地域活動団体、地域の事業者と協力しながら支援するとともに、市役所の 12 課での連携体制を構築し、相談支援を推進するものです。

(2)主な成果

① 福祉の総合相談拠点の開設

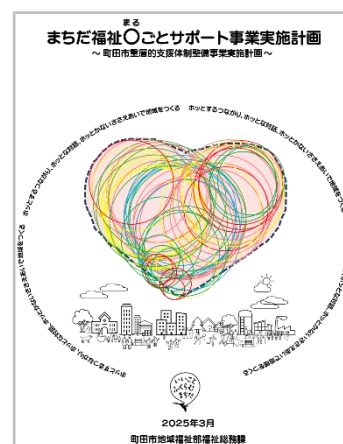
2022 年度から、複雑化・複合化した課題をはじめとした、さまざまな福祉の困りごとを受け止める福祉の総合相談窓口として、「まちだ福祉〇ごとサポートセンター」を順次開設し、2025 年 4 月に市内全域、5 箇所(堺、鶴川、忠生、南、町田)の設置が完了しました。各センターには、地域福祉コーディネーターを配置し、関係機関と連携して必要なサポートを行っています。



【〇ごとサポートセンター外観】

② 包括的な相談支援体制の整備

2022年度から、国の定める「重層的支援体制整備事業」の移行準備事業を開始し、2025 年度から本格的に本事業を実施しました。それに伴い、事業名を「まちだ福祉〇ごとサポート事業」とし、取組内容や推進体制を「まちだ福祉〇ごとサポート事業実施計画」(町田市重層的支援体制整備事業計画)にとりまとめました。



【計画表紙】

③地域の事業者との連携促進

支援を必要としながら声をあげられない方への支援を市民の日常生活の中から行っていくため、2024 年度から、コンビニエンスストアやスーパー、ドラッグストアにご協力いただき、〇ごとサポートセンターの PR カードを市内 100 店舗に設置しました。これにより、地域の事業者の方にも取組を知っていただきました。



【店舗での設置の様子】

(3) まちだ福祉〇ごとサポートセンターの実績

① 相談件数等実績

単独の支援機関では解決が難しいケースにおいて、相談者の意向をもとにコーディネートするなど、多くの市民の困りごとの解決をサポートしました。

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	定義
相談件数	237	1,308	4,079	8,943	◆いずれも延べ件数 ◆継続相談件数 相談件数のうち初回相談を除いた件数 ◆アウトリーチ件数 家庭訪問・同行支援や関係機関との連携等により地域への働きかけを行った件数
継続相談件数	84	769	2,974	7,184	
アウトリーチ件数	93	704	2,387	3,323	
(〇ごとサポートセンター設置数)	(1箇所)	(2箇所)	(4箇所)	(5箇所)	

② 相談内容のうち上位の内容

2025年度の相談内容別の上位は、経済的困窮、精神障がい、8050問題、ひきこもり、家族関係でした。これらの内容が複合的な困りごと相談として寄せられており、関係機関・支援団体と共に、連携して支援を行いました。

(件)			(件)		
No	相談内容区分	件数	No	相談内容区分	件数
1	経済的困窮	2,532	6	知的障がい	1,064
2	精神障がい	2,418	7	住まい	883
3	8050問題	1,549	8	仕事・就労	819
4	ひきこもり	1,396	9	ごみ屋敷	813
5	家族関係	1,092	10	健康	689

③ 地域の多様な主体と連携した参加支援

社会参加したい方について、本人・ご家族の意向や抱える課題等を丁寧に把握し、地域の社会資源につなげました。2025年度は、延べ46件の相談がありました。

【主な事例】

- ・人前に入る事に対して不安が強く、就労は難しい状況だが、社会参加したい女性について、高齢者施設で本人の特技を生かせるボランティア活動につなげました。
- ・40代ひきこもりの男性について、社会参加のためボランティアにつないだ後、過去にひきこもりを経験して現在は就労している当事者の方と話す機会を設けることで、就労意欲が高まり、就職につながりました。

④身近な居場所づくり支援

世代や属性を超えて住民同士の交流・参加の機会を生み出す居場所づくりのコーディネートを行いました。2025年度は延べ80件の相談がありました。

【主な事例】

・地域の中で仲間づくりや交流を目的として、地域の皆さんが運営する「ふれあいサロン」立ち上げの相談を受け、開設準備や運営に関するアドバイス等の支援を行いました。

(4)リーディングプロジェクトの課題

①支援を必要とする方の早期把握・早期支援の強化

地域福祉コーディネーターの導入等により、身近な地域で誰もが困りごとを相談できる包括的な相談支援体制を構築した一方で、望まない孤独・孤立やひきこもりなど、早期に把握することで深刻化を防ぐことができる課題については、引き続きアウトリーチや関係機関間の情報共有や連携を強化し、早期把握・早期支援を進めていく必要があります。

②相談支援と地域づくり支援の両立

居場所や参加の場など、支援の「つなぎ先」の充実を図っていくことが課題です。そのため、関係機関・地域団体・民間事業者等と、分野を横断した連携構築を進め、支援体制をより一層強化していく必要があります。

(5)関連する指標

I-2 地域活動に参加したことがある市民の割合

Ⅲ-1 地域福祉コーディネーターが地域のつながりから相談支援に結び付けた件数

Ⅲ-1 困ったときに助けてもらえる人や相談支援機関があると感じる市民の割合

Ⅲ-2 自分や周りの人が必要とする支援を受けられていると感じる市民の割合